

美唄市ICT農業推進協議会(北海道美唄市)

1 産地の概要

＜対象地域＞ 美唄市

＜対象品目＞ 水稻

＜産地の現状・課題＞

美唄市では、作付面積の約2/5が水稻で、農家戸数の減少や担い手の高齢化が進行しており、平均耕地面積面積は拡大し、ほ場が分散しているなか、耕地面積の約7割を目標に農業基盤整備事業により、ほ場の大区画化が進んでおり、水稻における農作業の省力化や効率化を求められています。

特に、水稻のヘリ防除作業を担うオペレーターの高齢化が課題となっており、若手農業者の大きな負担となっているため、新たな防除作業の取組が求められています。

2 検討体制

＜美唄市ICT農業推進協議会構成員と役割＞

- ・美唄市: 全体総括、革新計画の策定、検証試験のデータ解析等
- ・3JA: 生産者総括、検証試験のサポート等
- ・美唄市土地改良センター: 技術的助言、検証支援のサポート等
- ・農業者: ほ場の提供、検証試験等
- ・空知農業改良普及センター: 栽培技術の助言、検証試験支援等



ドローンによる防除作業の検証



先進地視察

3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

スマート農業技術を活用した営農体系を確立し、省力化・効率化による大規模経営産地を目指します。

R 2	作物	4月	5月	6月	7月	8月	9月
現在の 営農技術体系	— 水稻	耕起・代かき・移植・施肥		防除(無人ヘリが中心)			収穫



地域で無人ヘリと完全自動操縦されるドローンを組み合わせた防除

①ドローンの購入 ②ドローンのシェアリング

R 6	作物	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新たな 営農技術体系	— 水稻	耕起・代かき・移植・施肥		防除①(無人ヘリ) 防除②(完全自動操縦されるドローン)			収穫

＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

無人ヘリ共同防除が中心→ 完全自動操縦されるドローンを営農体系に組み込むことで防除作業時間の短縮が可能(ドローン: 高齢者、女性農業者など)

【現状】作業時間: 1ha 5分30秒→【目標】作業時間4分30秒

＜目標年度までのロードマップ＞

取組主体	R 3	R 4	R 5
美唄市 [事務局]	産地営農革新計画の達成に向けた支援 各補助事業検討、農業者の協議会参加者増		
農協	産地営農革新計画の進捗管理、地域への横展開 営農指導、各種条件整備に関する支援(情報提供)		
農業改良普及 センター	地域課題解決に向けた普及活動 栽培管理技術等の普及活動		